

記者…既に18歳で選挙権を持っている、若しくは近い将来に選挙権を得る高校生をターゲットに、という事ですね。

勝村さん…そうです。皆さん緊張はしていましたが、真剣に取り組まれていて、事前準備もしっかりされていました。

記者…当時の写真をみると堂々と話をされていた様子でした。高校生議会を開催することによって高校生に何を伝えたいのかについてどうでしょうか。

勝村さん…三原について調べてどのようしたら三原はもっと良くなるのかを他人事ではなく自分事として考えてもらう、そこは選挙とは直接的な目的として離れていますが良かったと思います。そして模擬体験してもらい、議会がどのように行われているか大事で大変な仕事なのかを感じた上で大事な一票を投じてもらい、自分の意見の政治や政策を行政に反映させる、そのようなことを伝えようと意識しました。

記者…今、当時は振り返ってみてどうですか。

勝村さん…高校生議事をやってよかったと思っています。参加者の皆さんも来ていただいたので、三原市議の皆さんにも来ていただいたのですが、

実はもう一つの目的は市議の皆さんに高校生の意見を聞いてもらいたかったからです。市議の皆さんにも若い声、特に高校生の声はなかなか聴くことが出



高校生議会開催について話を伺った勝村さん

たです。

もう一つはその時四つの学校が参加したのですが、色々な人と仲良くなれてインスタを交換するだとかそういう形で友達も増えてwin-winだったと思います。

記者…高校生は学校毎に一つのチームという事になるから、お互いに発表しあう中で対抗心が生まれるのかと思いきや、相手のすごいところはすごいと納得し受け止められるというのは素晴らしいですね。その他、反省点などはありましたか。

石川さん…反省点は自分でも調べ切ったと思っていたのが、思いもよらない質問が2個程出てきて返答が止まってしまった時があって、それがちよつと盲点だったし、もう少し調べておけばよかったなど。本当に想定外だったので、その想定をもう少し広くしておくべきだったなど、それは今でも後悔しています。

記者…結局答えられたのでしょうか。

石川さん…止まってしまった時、「納得いく答えではないかもしれませんが」と前置きをして何とか答えられました。

記者…高校生議会が終わって数年が経ちますが、その中で高校生議会に参加して得られたことは？

石川さん…元々人前で話すことが得意だったんですが、高校生議会に出ることによって更に自信につながりました。前までは話すことが得意ながらも、これでいいのか？という思いもあったのですが、参加してからは自分なら大丈夫と、自信につながって色々な場面で話すときもテンパらないし、任せて！みたいな感じで。生徒会で全校生徒の前でポンツと話すことも多かったのですが、その前でも鍛えられたのもあるし、大学でも結構話すんですけど全然上がらないです。

記者…得たこととつながりますが、高校生議会で得たものを今の自分に生かしていますか。
石川さん…はい！

来ないという事で感謝されました。議会で話す高校生たち姿を見て何かを感じ取ってもらえたのではないかと思います。

続いて、当時現役高校生として議会に参加した石川さんに話を聞きました。

記者…高校生議会をどこで知りましたか。

石川さん…先生から声をかけてもらいました。どういものかわからないので、先生に聞くと「三原市の高校生の代表が集まってイベントするんだけど、石川くんの得意分野だから参加してみたらどうですか？」と指名を受けていきました。記者…どうして高校生議会への参加を決めたのか、指名を受けたのもあるのでしょうか、断ることもできたかと思えます。

石川さん…生徒会の副会長をやっている人と話すのが好きなほうで初対面が当たり前の他校の人とコミュニケーションが図れる、それが自分の成長につながるのではないかと思い、二つ返事で「やります！」というかたちで引き受けました。

記者…では声をかけられて迷うことなくすぐに「行きます！」というかんじだったんですね。

石川さん…とにかく片足を突っ込んでみようというのは日ごろから意識していたので躊躇しませんでした。

記者…参加してみる前の高校生議会のイメージはどうでしたか。

石川さん…本番の前に話し合うテーマは決まっていたのでそれについて調べ物をしていたのですが、その時に重大なことだと気が付きました。でも調べていくうちに三原って良い所なんだと再認識できて、そういうところでも引き受けてよかったと思います。

記者…本番前にどの様な事前準備を行いましたか。

石川さん…三原の良いところ、というのを調べました。皆で出し合って決めたのですが、僕は交通の便が良いところかな、と。地方都市なのに新幹線もあるし、飛行機もあり、そして船もあるから地方都市の中でも田舎の方なのに最強なんじゃないかって。他には自然が豊かというのもあったんですが、とにかく交通の便が良いというのをブッシュしました。

記者…力強いお返事ありがとうございます。

もし今年、今年とは言わずとも今後高校生議会が開催されるならば後輩へのアドバイスをお願いいたします。

石川さん…高校生議会だけではないのですが、挑戦できることはとにかく挑戦して欲しいなと思います。コロナのせいでやりたいことや行動範囲がとても制限されていると思います。が、その中で自分が出て来る事などを見つけて挑戦して欲しいなと、その気持ちに本気で大事だと思おうので。あとは前向きにポジティブに俺なんかだめだ、私なんかじゃだめだ、ではなく自分なら大丈夫、このくらいならできる、そう思って欲しいです。

記者…参加する前と後で変化はありましたか。

石川さん…恥ずかしい話、参加するにあたって調べる前はただの田舎だと思っていたのですが、調べたら他の三原と同等の規模の都市と比べると新幹線も空港も船もあって三拍子揃っているところがすごいな、と。あとやっさ祭りやさつき祭りがど市民が一丸となって盛り上がる祭りが地方だけどもあるというのはすごく誇りだなと思うようになりました。

記者…三原の良さを再発見できた。

石川さん…そうですね。

記者…最後に高校生議会に対してのこんな思いがあるとか、こんな感じが良いのではとかそういうものがありますか。

石川さん…各学校のテーマが違うので聞いていて面白かったし、良い経験になったので学ぶ意欲がある子が参加できればと思います。それと高校生議会は無くしてはいけないと思います。次の世代へどんどんつなげていって高校生を軸にして三原の良いところを発信していくべきかなと思っています。

高校生議会とは、「まち」の課題を調べ、施策



インタビューに答えてくれた石川さん

記者…準備した後の高校生議会の本番はどうでしたか。

石川さん…会場（2017年当時、新庁舎建て替え中の為、仮市庁舎の三原市ゆめキャリアセンター内の本会議場）がテレビで見たことのある裁判所のような造りになっていて思っていたのと違ってびっくりしました。想像では四つ長机がならべてあって、そこで課題を話すイメージをしていたので、実際の会場を見て（こんなにガチなんだ！）と。入った瞬間は、うわっ！と思ったのですが、こういう空間が好きでここで話が出来るとは、早く自分の番が来ないかなという感じでした。

記者…そうですね、ああいうところに入れたとしても普通は案内だけで終わってしまうのにも実際にそこに立って同じように話をするというのは貴重な経験だろうなと思います。僕たちがつかわれてくれと言っても絶対無理な話なので私が高校生の時に高校生議会があれば参加したかったです。そして発表後の心境はどうでしたか。

石川さん…二つあって一つは他の学校の人たちがすごく調べていて結構自分の思っている事とは違う意見を皆持っていてそれに結構納得してしまっただけで、自分よりすごいな、という気持ちで楽しかった。提案すること、主体的に市政に関心を持ち、参画する人を増やすという目的があります。だから、まちづくりの原点になる可能性を秘めているのではないのでしょうか。そのうち市の起点が「まち」の高校生や若者、ひいては市民が市政に関心を持ち、そして、参画する人を増やすかもしれない。高校生議会には、そのような力があるのではないのでしょうか。

高校生議会2017

